



七夕集会 (2015. 7. 7)

七夕でんせつはこんなお話し！

昔、天の川のほとりに、はたおり（きれいな布を作ること）がしょうすなお姫さまがいたんだ。はたおりがしょうすだから「おりひめ」と呼ばれていたんだよ。



おりひめのお父さん、つまり王さまは、おりひめのけっこん相手をさがしていたんだ。そして、天の川の反対側に、よく働く若者を見つけたんだ。若者の名前は「ひこぼし」、牛の世話をし暮らしていたんだよ。



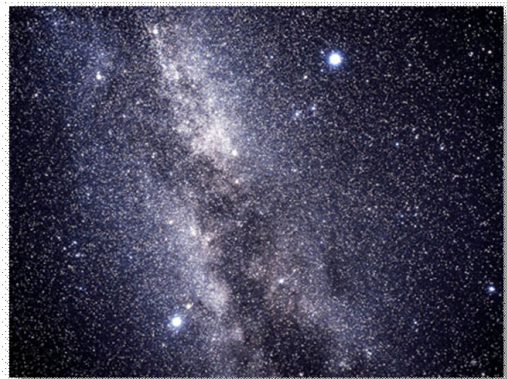
こうして出会った二人はなかよく暮らしはじめたんだけど、遊んでばかりで二人とも働かなくなってしまうたんだよ。おこった王さまは、天の川の反対側へと二人を引きはなした。すると今度は、悲しさのあまり仕事がすすまなくなってしまうたんだ。



そこで王さまは、「二人が1年に1度、七夕の日だけ川をわたって会うことをゆるす」ことにしたんだ。こうして二人は、七夕の日を楽しみにして、ふたたびよく働くようになったんだよ。1年に1度しか会えないなんてさびしいけど、そのぶん、喜びもとても大きいんだろうね。



七夕に雨が降ると、天の川の水が増えて川がわたれなくなり、二人が会えなくなってしまうとも言われているんだ。1年に1度のことだし、ぜひ晴れてほしいね！



自分の短冊が笹の葉とともに風に揺れているのを見ると、不思議とその願い事が叶いそうな気がしませんか。

ところで、そもそもなぜ七夕にこのような風習があるのでしょうか？ 織姫と彦星がデートついでに私たちの願い事も叶えてくれるということでしょうか……。

もともと短冊には、字がうまくなるように…という願いを込めて、自分が書いたものを吊るしたんだそうです。それが、いつの間にか書いた願い事が叶う、と変化していったと言われています。また、機織りが上手な織姫のように、習い事が上達するようにとお願いしたとも。

さて、みんなは、何を願いますか？
校長先生は、みんなが自分の力を発揮して、「キラリ」と輝きますようにと願います。みんなも輝くように努力しましょう。

